

那賀川水系河川整備計画（那賀川流域住民の意見を聴く会②）那賀町第一会場
議 事 要 旨

日 時：平成19年3月11日（日）13：30～18：08

場 所：那賀町木頭文化会館2F大会議場

参 加 者：71名

議事要旨：以下のとおり

【住民Aさん】

- ◇〇〇地域自主防災会連合会の会長をしている。3月9日に同会の臨時総会を開催し、本日の会について協議をした結果、小見野々ダム堆砂については容認できるものではないため、同会の意見を述べるべきだと全員一致で決定した。
- ◇過去の洪水の被害状況について、木頭支所に問い合わせた結果、棟数と戸数の表示の違いであることが分かり納得した。昭和40年と昭和51年（洪水で6人死亡）の台風被害がぬけている。修正素案には平成17年の浸水の記述はあるが、この表にはない。整合性を持たせるべきである。
- ◇出原地区は河床高の変動により浸水被害が変わり、一定の高さで河床を管理するのは難しいため、堤防で守りたいということであるが、以下の点に疑問がある。
 - ①平成17年の台風14号の流量は3,000m³/sと聞いているので、目標流量は3,000m³/sとすべきではないか。
 - ②堆砂の除去範囲を西宇まで延長できないか。
 - ③素案119ページの断面図が抽象的で分かりにくい。明確な目標を設定して欲しい。
 - ④一定以下の目標で河床を管理することはできるのではないか。
- ◇出原地区（川切）の堤防建設について、完成年度を知りたい。同時並行で堆砂の除去も必要である。堆砂除去の目標を具体的に示して欲しい。ダムができる前の河床の高さにできないのは、四国電力の堆砂除去がはかどらないことが原因ではないのか。堆砂問題の解決のため、県と町はもっと協議を兼ねて努力をお願いしたい。
- ◇歩危峡から下流の地区は、四国電力が管理し、県が連携するとある。小見野々ダムでは、山腹の崩壊により土砂の流入、堆積が見られる。四国電力では、災害防止のため、平成9年～17年の間に年間6万～7万m³の土砂を除去していると説明があった。そのことについて疑問に思ったことを申しあげる。
 - ①四国電力が計画的に堆砂除去を行っているとはあるが、これからの具体的な計画を聞きたい。
 - ②堆砂除去について、今後調整していくとあるが、どの機関が積極的で、どこが消極的なのか。県はどう考えているのか知りたい。
 - ③小見野々ダムを管理する四国電力に対して、指示や命令を出す必要がある場合、県には責任と権限がないのか聞きたい。
 - ④砂利採取申請は、砂利採取組合で一本化しており、現状は四国電力が発注する工事のみである。それ以外の申請は砂利組合から申請されているのか。また、砂利組合から申請がない場合、他の業者にも許可の他の業者に砂利採取許可の道はあるのか。
 - ⑤現状のような河川の状況で災害が発生した場合、その責任は県と四国電力のどちらがとるのか。
- ◇砂利を資源として活用を図るべきだと思う。例えば、大型砂利プラントを第三セクタ

一で建設し、建設用砂利の生産ができれば、公害物の除去を産業の振興、雇用の拡大で一石二鳥の効果が見られる。問題点としては、廃棄物の処理、漁業関係者との調整、採算性があるが、検討を願いたい。

◇助大橋の橋脚の高さを基本として、右岸側は20m、左岸側は14mとなるよう、県は四国電力に指導をして欲しい。

【事務局】

◇過去の洪水の被害状況は水害統計(各市町からのデータをまとめた本)に書いてある。昭和40年、昭和51年の洪水が、他にきちっとした被災データがあれば、確認して修正したい。また平成17年は調査して追加する。

【事務局】

◇平成17年の台風14号の流量3,000m³/sを基準にすべきではないかとの意見であるが、小見野々ダム地点で2,900m³/s、出原地点で2,100m³/sとなっており、海川谷川をあわせて約3,000m³/sである。

◇上流の西宇は、地盤が若干高く、護岸も整備されており、14号台風でも越水がなかった地区であり、今回の範囲には含めていない。土砂が流入し、越水する恐れがあり河道埋塞が大きい場合には、災害等での対応をしたい。

◇河床高の目標を明確に、という話については、河床高をできるだけ低くして欲しいという要求があることは承知しているが、平成17年度の河床高を基準として、2,100m³/sが安全に流れるように考えている。今予定している川底の高さは、一番危険な危ない状態で考えている。堤防の高さなどについては、測量等の結果をふまえて検討し、事業化する際には地区での説明会を開催し、具体的な高さを示したい。

◇堤防の完成時期については、整備計画策定後できるだけ速やかに事業へ向けての準備をしていきたい。ただし実施の際は、国の補助事業の採択を目指しており、来年完成ということにはならない。平成17年災害では、那賀町が応急的対策をしているが、もう少し辛抱していただきたい。

◇河床高を建設時の高さまで下げられないか、との意見については、当地区だけを掘削しても下流の河床が下がらないと効果が見込めない。河床の高さの管理は難しいので、堤防高で管理していきたい。整備に当たっては那賀町、当局とも協議し、可能な範囲で狭窄部は河道断面を広げたい。

【住民Aさん】

◇最大の原因は歩危峡から下流にあり、県が上流で砂利の高さをどうすることもできないことが分かった。やはり、解決の根本は堆砂除去である。

【事務局】

◇歩危峡から下流について、どのような計画で掘削をしているかと言うと、小見野々ダムは四国電力が管理し、堆砂除去については毎年6～7万m³位砂利を採取している。河床は前年より高くなるように掘削している。もっと掘削して欲しいと地元からの要望があることは四国電力に強く伝えており、国とも相談し3者で協議をしている。

◇指示命令については、県は四国電力に対しては直接出せないが、国土交通省は指示を出すことができるので、連携してやっている。

◇砂利採取は、四国電力が採取場所の測量をして、国と協議し、それによれば砂利採

取組合が県に許可申請をする。採取した砂利はすべてコンクリート用骨材として活用されている。

- ◇災害発生時の責任の所在については、元来当地区の地盤が低いこともあり、天災か人災か原因を特定するのが非常に困難であり、即答は難しい。
- ◇採取砂利を資源として活用する案については、四国電力の協力も必要である。コンクリート骨材として利用するには、需給バランスの問題もあり、阿南まで運搬するとなると、コストやトラック運搬など新たな問題が発生するため検討が必要である。
- ◇助大橋・及びその前後の砂利採取高の目標設定については大事で、四国電力、国とも協議していきたい。

【住民Aさん】

- ◇県に責任と権限がないことは分かった。国はどのような責任と権限で四国電力を管理していくのか聞きたい。砂利の有効活用については、プロジェクトチームをつくって検討して欲しい。

【事務局】

- ◇四国電力に対する要請や指示の件は、出原地区の浸水対策や助地区の堆砂問題の件を含めて、今後県と調整してやっていきたい。

【住民Bさん】

- ◇下流のダムを撤去を計画に入れて欲しい。ダムを造って得たメリットより、デメリットの方が大きいと思う。日本の河川を昔のような川に戻すのは並大抵ではない。

【事務局】

- ◇長安口ダムは不要で撤去すべきでないか、との意見であるが、その時々で必要な社会資本整備は当然実施するべきであると考えている。長安口ダムも治水利水面の必要性から建設されたが、それにより下流の阿南市や流域が繁栄したのも事実である。また、一方で堆砂や濁りの問題もある。その対応として、那賀川フォーラム2030で皆さんの意見を聴き、それをまとめた提言が整備計画に反映されている。ただ、今後のダム建設については、色々な意見があると思う。

【住民Cさん】

- ◇桑野川、大津田川について、「桑野川においては、床上浸水対策事業を実施し、その後、無堤地区の堤防整備を実施する」とある。現在オワタ地区は無堤であるが、左岸引堤をすれば、浸水が解消されるのか。
- ◇大津田川流域の雨により大津田川に流れ込む水量の計算はできているのか。大津田川の改修でポンプを2基設置する予定であるが、据え付け後に実施する圃場整備の影響を調査しているか。大津田川はどのぐらいの雨量に耐えられるのか。ポンプ2台で処理しきれない場合、ポンプ車は何台これるのか。桑野川の流水に大津田川からポンプで吐き出した水が合流するが、桑野川の堤防は耐えられるのか。ジェーン台風時の桑野川の資料があるかないかはっきりしていただきたい。

【事務局】

- ◇オワタ地区は左岸の引堤によって川の断面が大きくなり、洪水時の水位は下がる。そ

の後、嵩上げ等をする予定で現在より悪くはならないと考えている。

- ◇大津田のポンプについては、樋門を締めた後に宅地側に降った雨を排水する計算にしている。平成11年洪水の際には、1時間に100mmの雨が降ったが、このような大きな洪水でも床上浸水しないように計画している。
- ◇ジェーン台風については、古い時代のことであり、浸水の記録はあるが、整った雨量データの記録は無い。
- ◇桑野川にポンプ排水しても大丈夫か、との質問であるが、大津田のポンプが $10\text{m}^3/\text{s}$ 、桑野川の流量は $900\text{m}^3/\text{s}$ で、下流は $950\text{m}^3/\text{s}$ の計画である。ポンプの排水量を見込んで $950\text{m}^3/\text{s}$ の計画となっている。
- ◇ポンプ車が何台来ることができるとは他の地域の災害状況にもよるが、那賀川事務所が2台、徳島県が1台、さらに徳島事務所も数台所有しているので、周りの状況に応じて対応する。
- ◇圃場整備による流出量への影響はないと考えている。

【住民Dさん】パワーポイントで説明

- ◇小見野々ダムでは、年に200~300m堆砂が進行している。
- ◇5年後には、堆砂の先端がダム本体に届き川切地区の河床は1~2m上昇するだろう。
- ◇20年後には、川切、出原地区の河床は7mは上昇するだろう。
- ◇出原地区の堆砂は小見野々ダムの堆砂からきている。小見野々ダムの堆砂を除去すると、長安口ダムに溜まり、長安口ダムの堆砂は川口ダムに溜まる。
- ◇ダムがあるために、濁水が起きる可能性はないのか。
- ◇堆砂の測量データはどのように求めたのか。また、将来の堆砂量はどのよう計算したのか。
- ◇那賀川流域の治水は同じ管理者が一元的に行っていただきたい。
- ◇堆砂問題の解決にはダムを撤去するのが一番手っ取り早い。那賀町のPR効果も大きい。
- ◇学識者に地元住民や学生も含めて、有識者会議を開催して欲しい。

【事務局】

- ◇ダム貯水池内で土砂の中に水がしみこむ現象はあるが、ダムサイトでは岩盤にグラウトして水を通さない構造になっている。

【事務局】

- ◇ダムの堆砂量測定は、ダム建設前に川の地形を測量し、その後毎年深淺測量を実施して、川の深さを測ることにより行っている。
- ◇小見野々ダムの堆砂量は、平成17年で約 790万m^3 となっている。当初の総貯水量を $1,670\text{万m}^3$ として計算すると堆砂率は47%となっている。

【事務局】

- ◇長安口ダムの堆砂量は今後30年間で 240万m^3 を見込んでいる。元来見込んでいる堆砂容量内の 120万m^3 に加えて、現在の有効容量内に 120万m^3 程度の堆砂容量を設定している。ダム湖に流入する土砂量を年間 4万m^3 として30年間で 120万m^3 と考えている。上流で、できる限りの土砂を掘削して流入土砂を抑える考えである。

【事務局】

◇新たにダムを造る場合は、最近では100年の堆砂量を想定して計画するが、長安口ダムの場合、すでに造られたダムであるので、100年分を想定していないことをご理解いただきたい。

【事務局】

◇小見野々ダムは四国電力、長安口ダムは国土交通省、出原地区は徳島県が管理しているので、直ちに一元化することは難しいが、地元の方々に不安をあたえるようなこともあったかと思うので関係機関と連携して管理に取り組みたい。

◇ダムの撤去については、ダムがあるために、恩恵を受けた部分、迷惑をかけた部分があるが、今後も十分な対策をしていきたいので、ご理解とご協力をお願いしたい。

◇意見を聴く会については、学識者、地域住民、市町長と3つに分けて意見を聴くこととして考えている。できるだけ地域の地元の皆さんの参加しやすい場所でお伺いしたいと思っているので是非この場にご参加いただきたい。

【住民Eさん】

◇長安口ダムの排砂バイパスを修正素案に記述していただいたが、速やかに研究をして欲しい。ダムが諸悪の根源であるということは認めていただきたい。

◇小見野々ダムで河床掘削しているところは、建設資材として利用しやすいところだけである。下流部の堆砂を採る手だてをして欲しい。四国電力に対して国も県も強い指導をして欲しい。

◇那賀高木頭分校跡の湾曲部のグラウンドがいつも流水で被害を受けているので、対策をお願いしたい。

◇河川環境問題とも関係するが、漁業組合との協調が非常に難しい。従来の1河川1漁協ではなく、地元から要望があれば漁業組合の設立を認めて欲しい。地元住民が川を使えなければ意味がない。国も県も木頭地区の清流を評価して欲しい。

【事務局】

◇ダム管理者として、反省すべき点、記憶に残すべき点は多々ある。堆砂問題で浸水が懸念されることや、清流が失われたことについては承知している。長安口ダムは那賀川で唯一の多目的ダムで、治水、利水の両面で貢献していることは理解して欲しい。我々も環境負荷の少ない方法を検討しながら、努力していきたい。

【事務局】

◇小見野々ダムの関係で蔭井橋から下流も掘削計画に入れて欲しい、との意見については、国土交通省と十分協議して、四国電力とも調整しながら進めていきたい。四国電力への指導についても国とともに取り組んでいきたい。

◇那賀高木頭分校下流の湾曲部が流れの阻害要因となっていることは認識している。今後、測量して事業実施の段階で検討していきたい。

◇河川環境はできるだけ守っていきたい。漁業組合の一本化については、所轄ではないので、関係部署に伝えたい。

【事務局】

◇排砂バイパスについては、今回の整備計画【修正素案】の中に検討項目として記述し

ている。勉強のため、旭ダムに視察に行った。美和ダムにも今月中に勉強に行く予定である。本日の説明の中にもあったように、貯水池の一番下からトンネルを掘るなど、色々な事例がある。技術面の勉強をするとともに、那賀川倶楽部なども活用し情報の共有を進めていきたい。

【住民Eさん】

◇河川管理の中で、流れの障害物を取り除くことは重要である。出原谷川の狭い谷に小さな橋脚がある。そこに流木がひっかかり水がせき上げられると非常に危険であるので、早急に対応をお願いしたい。

【事務局】

◇町道の橋と思われるので町と協議しながら対応していきたい。

【住民Fさん】

◇那賀川の堆砂の問題について、林業と土砂との因果関係を考えず単に堆砂問題のみに力点を置いた検討だけで解決できるのか疑問である。私どもの推測では、林業と堆砂には大きな因果関係があり、放置すれば、15年後には地域の崩壊につながる可能性があると考えている。過密植林で伐採されずに、130年来、杉林が放置され、奥地に入ると草も生えていない所があり、雨が降るたびに土砂が流れてくる。木頭では大きな山腹崩壊はないため、これが原因と考えられる。山の対策を放っておき、下流でいくら砂を取っても効果があるとは思えない。

【事務局】

◇森林が土砂を止める機能を持っており、森林を維持することが大切なことは認識している。

【住民Gさん】

◇長安口ダムの改造、下流域の無堤部の堤防構築はいつ頃完成するのか。和食、平谷、出原の改修に順位はあるのか。あるのであれば出原からしていただきたい。
◇12月9日の説明で、出原の洪水流量 $2,100\text{m}^3/\text{s}$ に対応する時間雨量として、徳島県の複数の方から、70mmと50mmの想定雨量の説明がそれぞれあったが、どちらが本当の値か。過去には時間雨量100mmもあったので、 $3,000\text{m}^3/\text{s}$ を想定外とするのは、認識不足ではないのか。

【事務局】

◇長安口ダムの改造はおおむね10年、深瀬地区、加茂地区、持井地区の築堤は整備計画の前半までには完成させたい。できればもっと早くやりたいが、着手する時期が遅ればどんどん遅れていく。桑野川については平成20年度までに引堤とポンプを終了させる予定である。

【事務局】

◇和食、平谷、出原について優先順位はない。時間雨量50mmとは言っていないと思う。出原地区については、流域全部を対象に平均時間雨量63mmとしているが、あくまで平均であり場所によって多い所と少ない所がある。

【事務局】

◇約70mmについては、手元に雨量データがなかったので、概数でお答えした。正確には時間雨量は63mmである。2,900m³/sは平成17年14号台風における小見野々ダム地点の流量である。出原地区になおすと2,100m³/sである。この洪水にも対応できるような計画にしている。

【住民Gさん】

◇小見野々ダムの堆砂量を790万m³と言っているが、県の出している資料では693万m³となっている、どちらが正しいのか。

【事務局】

◇平成17年のデータでは、約790万m³となっており、毎年増えている。時点が古いのかもしれない。

【住民Hさん】

- ◇出原地区の2,100m³/sの算出基礎である時間雨量63mm、流域集水面積205km²から私が計算すると2,500m³/sになる。今のうちに修正した方がいいのではないか。
- ◇四国電力（砂利組合）が小見野々ダムの堆砂浚渫をしている。砂利として有効に使えるものしか採らないため、6～7万m³程度にとどまっている。県と国が考えて年間10万m³以上採ってもらえるようにしていただきたい。そうすれば出原地区の水害がなくなっていくと思う。
- ◇排砂バイパスについては誤解がある。長安口ダムに排砂バイパスを設置し土砂を下流に流しても、川口ダムは可動式なダムであることから、土砂を抜くことが可能である。排砂バイパスで聞きたいことがあれば私まで質問していただきたい。

【事務局】

- ◇出原地点での洪水流量は、最大時間雨量が63mm、出原地点で2,100m³/s、小見野々ダム地点で2,900m³/sの計算結果となっている。
- ◇下流に行くほど泥質が多いが、掘削については、国、県で連携して四国電力に対しご意見を十分お伝えし、前向きに取り組んでまいりたい。

【事務局】

◇長安口ダム下流への置土は、川口ダムを経由して下流へ流れて行くとのことであるが、今後も検討をしながら徐々に実施していくことが重要と考えている。

【住民Iさん】

- ◇ダムのゲート操作規程があるのか知りたい。大臣の許認可事項と聞いている。
- ◇昨年台風でゲートが閉まっていたため下流から上流へ逆流したのではないか。小見野々ダム管理事務所へ電話すると5分ぐらいで水が引いたということである。

【事務局】

◇小見野々ダムは四国電力が管理しており、操作規則があることは確認している。操作規則に基づいて操作を実施しているが、洪水調節機能が無く、流入量が930m³/sになると全ゲートがオープンとなる。しかし、川の断面より流下する口が小さいために、流

量が多くなると一時流れにくくなることもあるが実態は分からない。洪水時の操作については報告義務があるが、正常な操作であったと記憶している。

【事務局】

◇県議会でも質問があったが、操作規程通りの操作をしており、データを見せて欲しいならば、いつでも小見野々ダム管理事務所が説明すると聞いている。衝撃波は現実には起こらないと考えており、操作ミスも認められなかった。

【住民Jさん】

◇前回説明会において、写真パネルで山腹崩壊の場所を示したが場所を知っているか。源流のモニュメント近くの写真であり山腹崩壊が起り、大量の土砂が溜まっている。昨年の6～7月に源流から下流まで濁水が続いていたが、それでも現在まで放置されている、どのような対策を講じる予定か。

【事務局】

◇那賀川本川の水源であり、昭和51年災害で砂防ダム等を設置した経緯がある。砂防ダムはダムを設けることにより土砂が堆積し、流れを緩やかにし、山腹崩壊の侵食を止めることが目的である。県としての回答はすぐにはできないが意見を持ち帰り関係部局と協議し、後日回答したい。

【住民Gさん】

◇修正素案158ページの記述で、那賀川流域の森林管理が十分に行われていないのは、高齢化、過疎化等による人手不足のためとされているが、本当は木材価格の低迷のためと思う。植林の管理について県が間伐を促進しているが、雑木の間伐時期の適切な指導がなされていない。限界集落もひどくなると思われるので検討いただきたい。

【事務局】

◇木材の需要については、修正素案7ページにもあるように問題意識を持っている。今度、再修正する時には木材の需要の変化などについて考慮したいと考えている。

【住民Eさん】

◇漁協組合の設置の許可でなく、漁業権の独立を認めて欲しい。個人問題ではなく、国と県に入っただき、漁業権の独立が認められるよう検討していただきたい。全国の例を見れば、1河川1流域でいくつかの漁業権を認めている事例もある。漁業権の独立は、住民にとっては大切なことである。

【事務局】

◇県の水産課に意見があったことをお伝えする。

【事務局】

◇那賀川の河川整備は流域のために実施している。ご理解いただきたい。

【住民Kさん】

◇四国電力の堆砂問題であるが、四国電力には現在の倍の量を掘削して欲しいとお願い

しているが、聞いていただけない。

◇ダム上流の林業の問題は是非勉強してご協力願いたい。

◇長安口ダム改造事業の堆砂対策が実施された場合、砂利の除去はどのようにするのか。

【事務局】

◇土砂の除去については、長安口ダム貯水池上流で掘削を予定しているが、ダンプの台数など細部は検討していない。大きな洪水がきた場合には流入土砂が増えて、大量に採らねばならないので、状況を見ながら、今考えている容量を確保できるだけの土砂を採っていきたいと考えている。

【住民Lさん】

◇ダムの堆砂は諸悪の根源である。排砂バイパスを真剣に考えて欲しい。ダムに土砂が溜まると、水生生物や魚類、植物に悪影響をおよぼす。住民が腹を立てるのは当前である。

【事務局】

◇昭和31年に竣工した長安口ダムについては、下流域のメリットに目が向きすぎた部分があった。もっと真剣に上流地域の方々の思いを考えるべきだったと思う。現状を良くしていくという観点から、皆様方の意見を踏まえて、この整備計画をつくり、国の力を借りながら一生懸命力を尽くしてまいりたい。

【住民Fさん】

◇林業と堆砂との因果関係であるが、具体的な解決策は全国的にもない。土砂防止対策は、標高の高い上流地域の問題であるが、林業の衰退により危険が迫っている。皆さん方は林業について無関心すぎる。上流地域の実態を把握して欲しい。林業を無視して那賀川の河川整備はできない。杉材が売れないのは、林野庁も含め国そのものが杉材を売る対策を取っていないのが要因で、売るための具体案もない。明治、大正時代のままの考えで売ろうとしている。この地域にまで北欧からの木材が入ってきている。杉材は世界に誇れる優秀な木材であるので、那賀川上流の杉材だけでもお金になるようにしてもらいたい。そのための設備としては、5億円かければ優秀な工場ができる。また、1億円かければ試験設備ができる。杉材を活用するために新しい工場を造り、新しい製品を開発することを提案する。

【事務局】

◇河川整備において、林業、森林との関わりを考えなければ、那賀川地域の将来はない、との意見をしっかりと受けとめたい。県としては、河川整備にかかわらず、林業振興や地域振興、あるいは人口の問題等を総合的に捉えて那賀川流域全体を考えていくうえで貴重なご意見とさせていただきたい。